

シマフクロウ繁殖と河畔林造成、 その生態系サービスの評価および記録

活動地域  北海道

ひろげる助成

3年目

調査研究

イベントの
のべ参加者数 **420人**

植樹本数 **3,000本**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **85%**



過去の植樹地。定期的な管理を行っている

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

活動地域が広範囲にわたり、冬期間は積雪過多などの天候による制約。また、希少動物の営巣地を主としたフィールドであるため、活動及び調査に細心の注意が必要である。

■ 工夫した点

植樹、フォーラム、セミナー、研究会など年間を通して行事を設定し、活動の周知に努めた。また、公式HPにて過去の活動・研究成果をアーカイブ化し、公開の準備中である。

課題

シマフクロウ生息域である北海道・西別川流域において、河畔林造成、バイカモ保護活動を実施し、シマフクロウの増殖をはかる。また、生態系サービス機能を明らかにする。

目標

農林漁業が生態系サービスの恵みを享有していることを明らかにすることで、シマフクロウを象徴とした理想的な社会像、自然・人間・地域社会の共生を提示すること。

活動内容と成果

別海町にて植樹活動を実施。普及啓発活動の一環として同地にてフォーラムを開催。植樹地において下草刈りを行い、エゾ鹿による食害を防ぐため電気柵を設置し、河川の清掃など定期的にメンテナンス。ふか場となる巣箱、エサ場となる養魚場の定期管理。西別川上流域にバイカモ（清流中に生息する水草）保護網を2か所設置し、継続して定期観察。シマフクロウの生態を観察、有識者にインタビューを実施して「生態系サービス」に寄与する報告書を作成。植樹には約350人が参加し、約3,000本の苗木を植樹。フォーラムに70人参加。



シマフクロウの巣箱



西別川のバイカモの調査風景

全助成期間の活動を振り返って

長年継続してきた活動土台があったため、準備期間も十分であり、現実的な計画を立案することができ、おおむね計画通りに実施することができた。また、地元自治体、地元住民、早稲田大学をはじめとした研究機関及び研究者にも積極的に協力いただき、実践・研究活動とも円滑に進めることができた。一方で、映像記録、ツーリズムへの調査、農・漁業ブランド化と販売などは課題が残った。今後、課題を解決すべく尽力したい。

〒088-2461
北海道川上郡標茶町字虹別市街
HP: <http://kotankorkamuy.org> (公開準備中)



今後の 展望

北海道道東の広範囲にわたる活動地域を各自治体と協力しカバーしながら、協働団体と調査研究し、「西別川の全域にシマフクロウの声が聞こえるようにしたい」という夢の実現を住民自身の参加により実現する。本実践活動、研究調査の性格上、フィールドワークが必須であることから上述したように、質・量双方において努めながら向上し、継続して実施していきたい。